

報 告 書

2021年 3月 31日

活動実施団体名 葛西臨海水族園
責任者名 天野未知
報告書作成者名 田中隼人

1. 活動の名称 (タイトル・テーマなど)

高校生・大学生向け講座「海の学び舎」 Researchers of Aquarium－水族園の研究活動－
第3回「新種を見つける～超深海から海辺まで～」
講師：田中 隼人 (葛西臨海水族園 教育普及係)

2. 実施日

令和3年 2月 28日 10時00分～12時00分

3. 実施場所

ウェブ会議サービス「Zoom」を使ったオンライン講義形式

4. プログラム等

時間	実施内容	camera
0940	Zoom 受付開始	
1000	開始 趣旨説明・講師紹介	ビデオカメラ
1010	講師自己紹介	PC カメラ
1020	質疑応答	ビデオカメラ
1030	講演 前半	PC カメラ
1040	水槽内の生物探し実演	顕微鏡カメラ
1100	講演 後半	ビデオカメラ
1130	質疑応答タイム・アンケート	
1220	終了	

5. 対象・参加人数

高校生・大学生 (大学院生含む)

93名 (参加申し込みは114名)

高校12名、大学56名、修士3名、博士3名、専門2名、中学1名

6. 活動の内容・状況・感想

海には、人間に見つかっていない生き物がまだまだたくさんいる。熱水噴出孔や超深海底のよう

な極限環境から、身近な海辺にまで、実際の調査のようすを紹介し、海の中から新種を見つけ名づける研究について話した。水族園の水槽にいる小さな生き物をライブで探すことにも挑戦した。また、高校生・大学生の進路選択のヒントとなるように水族園で働くに至った履歴などを話した。ただ話を聞くだけでなく、実際に微小動物を探す様子や採集した生き物を見てもらう疑似体験的な要素を入れた。アンケートからも強く印象に残ったことが分かった。また、質問コーナーでは進路や研究することについての質問もあった。

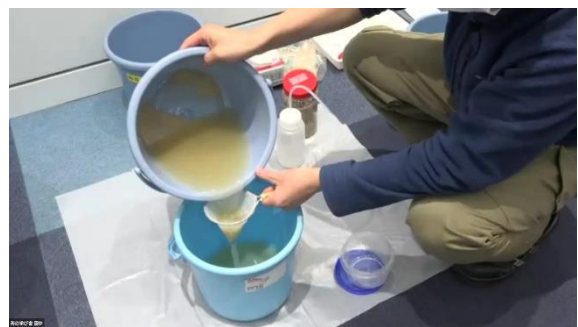
参加者からの感想（一部抜粋）

- ・私は水族館・動物園の意義として、教育普及活動も大きな役割の1つだと思うので、生き物を見る視点の提供、という考え方は、とても大切でイメージしやすい言葉として印象に残りました。
- ・昆虫が専門分野ですが、海洋性のマニアックな生物の存在を知ることができて楽しかったです。採集した砂から間隙性生物をリアルタイムで探す実演が方法を踏まえてされていたので結果や結論を知るだけでなく過程が知ることができて面白かったです。
- ・少しでも興味があることは挑戦したほうが良いという、これから大学生になる方へのメッセージが印象的でした。また海洋ゴミについてもともと興味がありましたが、プラスチックの問題だけが悪いのではなく、問題の一つであるという意識がなかったため衝撃を受けました。考えてみれば当然のことではありますが、受動的に問題をとらえていたことに気づくことができました。
- ・顕微鏡での観察とても楽しそうで、今度やってみたいと思いました。

7. 写真



様々なカイミジンコ



間隙性動物抽出の実演



見つかった微小動物（タナイス類）



発表の様子